

宇宙を旅したササユリと糸魚川世界ジオパークとの素敵な関係

The fantastic relations between Itoigawa Global Geopark and Sasayuri (*Lilium japonicum*) which traveled in the universe

宮島 宏^{1*}, 小野 健², 竹之内 耕¹, 茨木 洋介¹

MIYAJIMA, Hiroshi^{1*}, ONO Ken², TAKENOUCI, Ko¹, IBARAKI, Yousuke¹

¹ フォッサマグナミュージアム, ² 株式会社谷村建設

¹Fossa Magna Museum, ²Tanimura Corporation

市の花・木・鳥・石

糸魚川世界ジオパーク (IGGP) のある新潟県糸魚川市では, 2005 年の糸魚川市・能生町・青海町の 1 市 2 町の合併 1 周年を記念して 2006 年に市の花・木・鳥・石が新たに制定された。『市の石』があるのが「世界ジオパークのまち糸魚川」らしいところだ。石はもちろんヒスイである。花はササユリ, 木はブナ, 鳥はカワセミとなっている。

糸魚川のササユリ

糸魚川市の花「ササユリ」は, 学名の *Lilium japonicum* が示すように日本を代表する日本固有のユリだ。ササユリは本州中部以南の野山に広く分布し, 糸魚川の特産ではないが, その可憐な姿と上品な色合いから合併前の糸魚川市でも市民から愛され『市の花』となっていた。

2008 年 11 月 14 日スペースシャトル・エンデバーに乗って糸魚川のササユリの種は宇宙に出, 255 日間で地球を 4080 回周回した後, 2009 年 7 月 31 日に再びエンデバーに乗って若田光一宇宙飛行士とともに地球に帰還, 同年 9 月 10 日糸魚川に再び戻ってきた。糸魚川のササユリが宇宙に行くことになったのはなぜなのだろうか。そこには糸魚川世界ジオパークの山と海, 地下資源, 人間, 会社, 大学などが複雑に織りなすジオパークらしいドラマがあった。

花伝説・宙へ

『花伝説・宙へ』は, 多くの人に宇宙への興味を持ってもらう目的で有人宇宙システム株式会社が計画したものだ。これは国際宇宙ステーションの日本の宇宙実験棟きぼうに, 日本人にとって馴染みの深い花の種を運び, 再び地球に帰還, 育成する過程でさまざまな行事をおこなうことで上記の目的を達成する。宇宙に運ばれる花の種として, 北海道から沖縄まで 16ヶ所の植物が選ばれた。最も多いのはサクラで, 日本三大桜として有名な三春滝桜・神代桜・根尾谷淡墨桜の他, 合計 14ヶ所に上る。残り 2 つのうちの 1 つは茨城県つくば市のコスミレ, そして最後の 1 つが糸魚川市の花ササユリであった。

小野健と梅海新道

糸魚川ジオパーク推進市民の会の副会長の小野健は, 福島県いわき市に生まれ, 早稲田大学理工学部資源工学科を経て糸魚川(当時は青海町)の電気化学工業(デンカ)に就職した。デンカでは原石部長として活躍し, 青海鉱山での石灰岩の有効で安全な採掘に尽力した。若いころから登山が好きだった小野は糸魚川周辺の山々を次々と登り, その魅力の虜になっていた。そのため他の鉱山や本社への転勤を小野は頑なに断った。北アルプスの最北部の長梅山から親不知の間の約 20km の部分の稜線に登山道がなく, 海まで完全縦走することはできなかった。普通の登山家ならここで諦めるところだが, 小野は道がないのなら作れば良いと考えた。山好きの職場の仲間を集め「さわがに山岳会」を結成し, 10 年の歳月をかけて 1971 年に遂に登山道を切り拓いた。ほとんど人力で作られた道は梅海新道と命名された。

長谷川洋一の訪問

ある日, 小野を長谷川洋一が訪ねた。山好きの長谷川は, 梅海新道を題材とした小説の執筆を考えていた。話の中で小野が取り組んでいるササユリ復活の話が心に留まった。以前, ササユリは糸魚川の野山で普通に見られたが, 目立つ花のため人々に採られてしまい, 近年ではその数が激減していた。

実は長谷川は前述の『花伝説・宙へ』計画の推進者であった。宇宙に持って行く花として日本の国花サクラが考えられていたが, 長谷川は小野の住む糸魚川のササユリを加えることにした。学名が示す日本固有のユリということもササユリを宇宙に持って行く理由となった。

大地がササユリを宇宙に運んだ

糸魚川の青海川の最奥に橋立金山の坑道が今も残り, 川では砂金が今でも見つかる。金山は 20 世紀初頭に最盛期を迎えたが, 当時の経営者が竹内明太郎だった。日本の発展のためには機械工業が重要と考え, 佐賀県唐津に工科大学の設立を考えていたが, 早大理工科の設立への協力を大隈重信総長(元は佐賀藩士)と高田早苗学長に依頼され, 資金と人材を提供した。これが梅海新道を作った小野の母校早稲田大学理工学部となる。小野がいなければ梅海新道もなく, サ

MIS32-01

会場:202

時間:5月21日 09:00-09:15

サユリも宇宙に行くことはなかったであろう。さらに橋立金山がなく、黒姫山という石灰岩の山がなければ小野は糸魚川に来ることはなかったであろう。つまり橋立金山や石灰岩がササユリを宇宙に運んだのである。竹内は小松製作所の創設者でもあり、日産自動車の前身である快進社の応援をした。DATSUNのTは竹内のイニシャルである。

宇宙ササユリが花開くとき

ササユリの返還式では、地元の小学生が「ふるさと」と「ジュピター」を歌い、小野がこれまでの経緯を説明した。谷村環境緑化研究所の藤田央子により種の発芽が試みられ、約600個の内26個の種が発芽した。さらに培養が進められ宇宙に行ったササユリが花を咲かせるのは2014年頃になるという。

キーワード: ササユリ, 糸魚川, 花伝説 宙へ!, 国際宇宙ステーション, 橋立金山, 拇海新道

Keywords: Lilium japonicum, Itoigawa, Cosmo Flower 2008 Mission, International Space Station, Hashidate Gold Mine, Tsugami Shindo